

〔ノート〕

キューバ第3次農業改革の実態及び今後の課題 —UBPCを中心として—

西 村 富 明

Reforma de Agricultura Cubana y su Problema

— UBPC —

Tomiaki NISHIMURA

はじめに

1. キューバ経済の概略

- (1) マクロ経済
- (2) 庶民生活実態

2. 第3次農業改革前史

3. 第3次農業改革—UBPC—

- (1) 設立過程及び 特徴
- (2) UBPCの現状
- (3) 農業生産の実態

4. 今後の課題

はじめに

キューバはカリブ海地域に位置し、本島、青年の島、小さな島々の群島である。面積は九州より小さく、人口は1,200万人である。そのうち200万人余が首都ハバナに住んでいる。人口の66%が白人、33%が混血と黒人、残りの1%が中国系である。キューバの東隣77キロ離れてハイチがあり、南140キロにはジャマイカ、西210キロにはメキシコのユカタン半島、北のわずか180キロにはアメリカ合衆国のフロリダ半島がある。だからアメリカの裏庭に位置していると言われるのである。気候は湿度の多い熱帯性で、平均気温は24度で、夏は27度、冬は21度である。乾期は11月から4月まで、雨期は5月から10月までである。

多くの日本人は1959年1月1日の「カストロ革命」で、キューバを知るようになったと思う。61年にカストロが「社会主義宣言」を行ってからキューバは社会主義国へ移行した。特に注目すべきことは、教育政策と社会医療政策である。非識字率は、88年段階で1.5%まで減っている。小学校から大学にいたるまで教育費は無料である。医療費についても同じである。発展途上国であるにもかかわらず、現在男性の平均寿命が73.5歳で、女性は77.5歳と非常に高いのである。

キューバ人は1990年以降を平和時の「特別期間」と呼んでいる。89年12月のコメコン体制の崩壊、91年12月ソ連崩壊、東ヨーロッパにおける社会主義の崩壊やアメリカの経済封鎖等によって、キューバ経済は危機的状況に陥ったのである。打開策として、「市場制度付き社会主義経済」を導入している。それは、キューバ社会主義理念の利益に沿った開放経済政策である

90年代前半の経済改革及び農業改革は、キューバにとって、大きな方向転換を意味するものといえよう。社会主義・共産主義の理想である国営化を集団化に転換して、経済効率化で、キューバ経済の再建を図ろうとするものである。キューバ社会主義建設40年間のひずみを認識して、新たな道を模索し始めたともいえよう。キューバ社会の新しい出発に際して、第三次農業改革は最も重要であり、さらにキューバ国民の思想をも深化させるものであると位置づけたい。

1. キューバ経済の概略

(1) マクロ経済

80年代末東ヨーロッパの社会主義制度の崩壊、特に大国ソ連の崩壊のため、90年初頭には新しい国際関係を構築しなければならなくなった。

東ヨーロッパ諸国、特にソ連との貿易関係が突然決裂し、アメリカのより大きい経済封鎖の結果、国の輸入能力が減退し、生産の破局的低下をもたらした。化学肥料・農薬、農業資材、石油などの不十分な供給のため、農業生産が大きく収縮した。直接の結果は次の通りである。

①輸出量の減少、②食料生産の減少、③技術の後退、④資本投入の減少、⑤生産手段・労働生産性の下落等である。

第1表 国内総生産の推移

	総額（百万ペソ）	対前年比	89年対比	国民1人当たり生産額（ペソ）	89年対比
1989	19,585.8		100.0	1,851	100.0
1990	19,008.3	-2.9	97.1	1,777	96.0
1991	16,975.8	-10.7	86.7	1,562	84.4
1992	15,009.9	-11.6	76.6	1,381	74.6
1993	12,776.7	-14.9	65.2	1,168	63.1
1994	12,868.3	0.7	65.7	1,174	63.4
1995	13,184.5	2.5	67.3	1,198	64.7
1996	14,218.0	7.8	72.6	1,288	69.6
1997	14,572.4	2.5	74.4	1,313	70.9
1998	14,754.1	1.2	75.3	1,320	71.3
1999	15,661.0	6.2	80.0	1,402	75.7

出所：NOBA「LA ECONOMIA CUBA EN LA DE CADA DE LOS 90」P1

第1表で国内総生産の推移を見ると、90年代のキューバ経済は、93年まで対前年比がマイナス成長で、危機的状況が深刻であることがわかる。94年からマイナス成長を反転したにもかかわらず、成長率は不十分で不安定であった。90年代のアメリカによる経済封鎖の強化は、国際経済環境を悪化させ、経済回復阻害要因になったことは言うまでもない。89年の総生産額195億

8, 580万ペソに対し、99年は156億6, 100万ペソで、まだ89年の生産額の80%にしか達していない。このことから、国民生活はまだ不安定であると言わざるをえないだろう。また、99年の後半以降のエリアン少年の帰還問題でも莫大な経費を課せられている。これもアメリカとの経済戦争の一例である。

99年の国民総生産の計画成長率は2.5%であったが、それを上回って6.2%を実現することができた。目標の2.5倍である。しかし、89年の国民総生産の80%に達しただけである。国民の生活水準が89年まで回復するにはまだ時間が必要であろう。

第2表 国内総生産（1981年基準）

100万ペソ

	1990		1996		1997		1998	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
農業・狩猟・林業・漁業	1,756.3	9.2	1,075.4	7.56	1,073.7	7.4	1,017.5	6.9
鉱山・採石	91.6	0.5	177.3	1.25	181.9	1.2	184.1	1.2
工業	4,640.2	24.4	3,835.4	27.0	4,154.5	28.5	4,290.7	29.1
電気・ガス・水道	454.6	2.4	398.0	2.8	421.8	2.9	426.8	2.9
建設	1,508.1	7.9	538.5	3.79	556.0	3.8	587.9	4.0
商業・レストラン・ホテル	4,936.3	26.0	3,250.8	22.9	3,175.8	21.8	3,089.6	20.9
運送・倉庫・通信	1,202.3	6.3	813.4	5.72	845.4	5.8	855.4	5.8
金融・不動産・企業サービス	603.2	3.2	518.6	3.65	544.5	3.7	599.3	4.1
公共、社会、個人サービス	3,815.7	20.1	3,610.6	25.4	3,618.8	24.8	3,702.8	25.1
総計	19,008.3	100.0	14,218.0	100.0	14,572.4	100.0	14,754.1	100.0

出所：「CUBA EN CIFRAS 1998」P 30

第2表で、より具体的に国内総生産を部門別に見ていこう。建設部門は90年の15億810万ペソから98年5億8, 790万ペソまで減少し、90年の生産額のわずか39%である。農業部門では90年の構成比9.2%に対し、98年6.9%と減少し、90年の生産額の57.9%まで減少している。商業・レストラン・ホテル部門は90年49億3, 630万ペソから98年30億8, 960万ペソと減少し、まだ90年の62.6%である。運送部門は90年12億230万ペソから98年8億5, 540万ペソへと減少し、まだ90年の71.1%である。この4部門が成長・回復することが、キューバ経済の成長の大きな要因になることが分かる。

第3表で外国貿易を見ると、90年には輸出の81.1%はヨーロッパで、アメリカ（ラテン）は7.3%あったが、98年ヨーロッパは57.3%に減少し、アメリカ（ラテン）は逆に26.8%へ増加している。輸入においても、90年ヨーロッパ87.5%、アメリカ（ラテン）6%に対して、98年ヨーロッパ41.9%に減少し、アメリカ（ラテン）38.6%に増加している。外国貿易は今日では多様化が進み、ラテンアメリカがかなり重要視されていることが分かる。

次に第4表で輸出商品の推移を見ると、90年には砂糖が全体の80.1%を占めていたが、97年には46.9%まで減少している。砂糖の輸出量は90年43億3, 750万ペソに対して、97年8億5, 330万ペソで、90年のわずか19.7%しか輸出できなかったのである。主力

第3表 外国貿易の推移

100万ペソ

	1990		1996		1997		1998	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総輸出	5,414,949	100.0	1,865,526	100.0	1,819,127	100.0	1,443,660	100.0
ヨーロッパ	4,391,470	81.1	1,114,215	59.7	916,414	50.4	827,395	57.3
アジア	439,701	8.1	264,137	14.2	338,038	18.6	188,477	13.1
アフリカ	189,139	3.5	103,515	5.5	144,802	8.0	39,580	2.7
アメリカ	394,404	7.3	382,430	20.5	418,125	23.0	387,477	26.8
オセアニア	235	0.0	1,229	0.1	1,748	0.1	731	0.1
総輸入	7,416,525	100.0	3,568,997	100.0	3,987,256	100.0	4,181,192	100.0
ヨーロッパ	6,488,109	87.5	1,353,088	37.9	1,503,028	37.7	1,751,375	41.9
アジア	428,619	5.8	379,976	10.6	509,300	12.8	686,016	16.4
アフリカ	32,042	0.4	42,638	1.2	62,415	1.6	101,546	2.4
アメリカ	444,945	6.0	1,760,453	49.3	1,876,385	47.1	1,612,312	38.6
オセアニア	22,810	0.3	32,842	0.9	36,128	0.9	29,943	0.7

出所：「前掲書」P38

第4表 輸出商品の推移

100万ペソ

	1990		1995		1996		1997	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
砂糖	4,337.5	80.1	714.3	47.9	976.3	52.3	853.3	46.9
鉱業製品	398.2	7.4	331.1	22.2	422.8	22.7	416.3	22.9
うちニッケル	388.3	7.2	323.6	21.7	416.8	22.3	415.3	22.8
たばこ	114.4	2.1	102.1	6.8	108.9	5.8	161.2	8.9
漁業製品	101.9	1.9	122.8	8.2	126.1	6.8	127.9	7.0
農牧製品	183.9	3.4	44.8	3.0	39.1	2.1	38.8	2.1
うちコーヒー	26.6	0.5	27.2	1.8	19.1	1.0	24.2	1.3
その他	279.0	5.2	176.5	11.8	192.3	10.3	221.6	12.2
うち飲み物	13.2	0.2	10.0	0.7	13.2	0.7	12.6	0.7
セメント	0.5	0.0	23.6	1.6	17.1	0.9	39.1	2.1
合計	5,414.9	100.0	1,491.6	100.0	1,865.5	100.0	1,819.1	100.0

出所：「前掲書」P39

商品としてはかなりの打撃であることが分かる。90年の輸出総額が54億1,490万ペソに対して、97年は18億1,910万ペソで、33.6%の輸出量である。輸出量が減少していることが分かる。早い回復を期待しなければならない。

次ぎに第5表で観光客の推移を見ると、90年わずか34万人が、98年には4.2倍の141万6,000人に増加している。とくにヨーロッパは15万9,000人から78万人へと4.9倍も伸びている。アメリカ（ラテン）も3.7倍に伸びている。観光収入を見ると、90年2億4,340万ペソから98年18億1,600万ペソと、7.5倍も伸びている。99年の計画と

第5表 観光の推移

1000人, 100万ペソ

	1990	1996	1997	1998
観光客	340	1,004	1,170	1,416
アフリカ	2	3	5	6
アメリカ	161	417	494	592
ヨーロッパ	159	559	641	780
アジア・オセアニア	5	16	8	8
中央アジア		3	3	3
オリエント（中央）		1	2	1
観光収入	243.4	1,333.1	1,543.3	1,816.0

出所：「前掲書」P45

して、観光客170万人、観光収入21億4,200万ペソを見積もったが、98年と比べると成長はしたが、実現には至らなかった。このようにキューバ経済では観光が脚光を浴びていることが分かる。

最後に第6表で国家予算を見よう。財政は赤字続きである。経済がもっとも底をついた94年に14億2,100万ペソの赤字を出し、それ以降赤字額は減少したにもかかわらず、98年以降赤字が増加傾向を見せて、99年見積では61億2,000万ペソに跳ね上がっている。今後経済を成長させ、国家財政が均衡を保つように計っていかなければならない。具体的に見ていくと、収入では流通・販売税が、毎年40%台を保っているのが特徴である。支出を見ると、経営活動に20%も支出しているのが特徴で、今後各企業の経営活動を改善し、この項目の減少を計っていかなければならない。

第6表 国家予算の決算

100万ペソ

	1994	1995	1996		1997		1998		1999（見積）	
	実数	実数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
収入合計	12,757.0	13,043.0	12,242.8	100	12,203.6	100	12,502.0	100	13,400.0	100
うち流通・販売税			5,079.0	41.5	4,876.2	40	5,076.4	40.6	5,738.0	42.8
社会保障国税			959.2	7.8	1,070.5	8.8	1,025.0	8.2	1,115.0	8.3
支出合計	14,178.0	13,809.0	12,813.5	100	12,662.6	100	13,061.7	100	14,012.0	100
うち経営活動			2,605.7	20.3	2,236.2	17.7	2,588.4	19.8	2,893.0	20.6
教育			1,421.3	11.1	1,453.9	11.5	1,509.7	11.6	1,865.0	13.3
公衆衛生			1,190.3	9.3	1,265.2	10	1,344.9	10.3	1,600.0	11.4
社会保障			1,630.2	12.7	1,635.9	12.9	1,705.1	13.1	1,758.0	12.5
防衛と国内秩序			496.7	3.9	637.5	5	537.1	4.1	851	6.1
行政機関			397.5	3.1	431.2	3.4	437.8	3.4	476	3.4
黒字・赤字	-1,421.0	-766.0	-5,707		-4,590		-5,597		-6,120	

出所：「前掲書」P35, その他

(2) 庶民生活の実態

庶民生活がもっともひどかった時期は、国内総生産が89年比で65%台に落ち込んだ93年～94年の頃である。人々は食べ物が少なく、今まで食べたこともない魚の頭やバナナの皮等を食べて飢えをしのいだとのことである。また、石油輸入不足から交通事情が非常に困難になって、自転車が高価品になった時期（93年～94年）には自転車泥棒が横行して、社会問題化した。暗い夜道に、自転車に乗った人の首の高さぐらいに鉄線を張って、自転車を倒して泥棒するとかで、これが運悪く殺人事件にまで発展したとの話も私は聞いた。現在はこのようなどん底の生活からは回復しているが、依然として庶民生活は困難であると言わざるをえない。

第7表 主な配給物資の量及び価格（1ヶ月1人当たり） 2000年1月現在

品 物	量	価 格	単価（1リブラ、個）
じゃがいも	4	1.6	0.4
米	6	1.5	0.25
砂糖（白）	3	0.45	0.15
砂糖（ザラメ）	3	0.3	0.1
塩	0.5	0.1	0.2
マッチ	1	0.05	0.05
パン	30	1.5	0.05
鶏肉（足）	1	0.7	0.7
たまご	12	1.8	0.15
魚のカンズメ	1	1.7	1.7
合 計		9.7	

出所：独自調査

第7表は、ボデガと呼ばれる配給所で販売されている商品の配給量と価格である。じゃがいもは、1リブラ（450グラム）40センターボ（キンタ、ピコ）と安い値段であるが、1ヶ月にわずか4リブラしか配給されないのである。しかも、じゃがいもは自由市場では販売していないので、ここで買った分しか食べることができない状態である。国民が食べる分を農家は生産していないこともある。米も1リブラ25センターボと安いけれども、1人当たり6リブラしか配給がない。足りない分は自由市場で1リブラ5ペソの高い値段で買わなければならない。パンは1個5センターボと安く、1ヶ月に30個買える。闇商人は1個1ペソと高い値段で売っている。たまごは1個15センターボでわずか12個しか配給がない。肉や魚にいたってはほとんど配給がない状態である。ボデガの価格は安い、必要量を配給できない状況である。

次に、参考資料（A世帯～F世帯）によって、聞き取り調査を分析してみよう。A世帯は1人住まいで、リブレタ（配給手帳）でこまめに買い物している。ボデガで10ペソ程度の買い物をしている。ほかに闇商人が魚や牛肉やランゴスタ等を持ってくるのでそれを安くで買っている。外貨にアクセスすることができる条件があり、かなり豊かな食生活をしている。B世帯は1人住まいの62才の男性である。ボデガで9ペソ、自由市場で79ペソの買い物をしている。定年退職者であ

るが、自動車を所有しているおかげで、個人タクシーを闇で営業することができて、かなりの収入をえている。C世帯（2人）は青年の島の農村地帯で生活している。ボデガでの買い物18ペソが主である。1人当たり9ペソである。自由市場は街にあり、バスを使つての買い物になる。バス料金は25センターボでハバナより5センターボ高い。水道やガス等にも不便さがあり、都市よりも農村の方が生活は厳しいかもしれない。しかし本人達はいたって平気で、厳しい生活に順応している。農村環境の良さと人間環境の良さだろうか。D世帯（2人）は離婚女性で3才の子供と住んでいる。1ヶ月の給料は148ペソである。1月は肉や鶏肉を食べたので、給料以上の生活をしたことになり家計が大変だということが分かる。ラジカセとテレビを所有している。恋人がいて、日常生活は楽しんでいるという感じを受けた。E世帯も離婚家庭で、25才の子供（無職）との生活である。本人も無職で、外貨の送金を受けて生活している。1ヶ月200ドル程度の生活をしていることが分かる。ドル所有者は食生活が豊かである。F世帯は5人家族で、4人が働いている。1人当たりの給料は130ペソ前後である。ボデガで40ペソ、自由市場で1090ペソの買い物をしており、1人当たり226ペソになる。したがって、給料以上の生活をしていることが分かる。生活に無理がある。さらに、E世帯以外の5世帯ともドルショップで最低限油と洗剤を買わなければならない。油が1本2.4ドル、洗剤が1個1.5ドルである。

このように具体的に数字で見ると、1ヶ月の生活費が1人当たり200ペソ前後必要で、赤字になっていることがハッキリする。

2. 第3次農業改革前史

キューバでの協同組合の最初の表明は、ラテンアメリカと同じく、今世紀のはじめの頃である。“joven cuba”というGuiteras氏の同盟革命プログラムによって、協同組合はオルターナティブの社会生産組織として承認された。1940年の憲法には、キューバ国家が協同組合の設立を支持するとなっている。ところが、この運動は大きくならず、小さな分散協同組合しか発生しなかった。1959年の革命成功までにこの社会組織の形成を推進することはできなかった。

革命後の第1次農業改革で、農業協同組合、漁業協同組合、協同消費組合などが設立された。協同組合化の過程は農村にだけでなく、1959年にマタンサス市でも、肉処理工業協同組合を設立した。また、土地の所有権は個人的であるという特徴のCCSの87カ所に1万人以上の農家が連合した。さらに、個人農家だけでなく協同組合員を組織するために、1961年にANAPが設立された。大土地は国営になって、所有権の複数構造が形成された。国営部門が全土地のほぼ40%を所有し、協同所有と私的所有が60%を占めた。

その後、1963年の第2次農業改革で、農村ブルジュアジーの土地を国有化していく課程を進めた。農業部門の労働者階級が強化され、プロレタリア化された。その結果、全土地の66%が国家所有となって、土地所有権構造が大きく変わった。

1960年代の初期に、60ほどのSAP（農業同盟）を設立した。土地と資産が社会・集団化され、分割できない所有となったことが特徴である。しかしこれらの組織が疲労してきて、個人農家と国営所有地の間に共存する場所を見つけることができなかった。

1975年の共産党第1回大会で、CPAの設立が認められた。これで協同化運動が活気づいて、1977年に6万2,000人の組合員と土地の11,2%を所有する1,113単位を設立した。所有のしかたはSAPと同じだった。農業開発を増やすために、1982年にCPAを統合した結果、協同組合を拡大する過程に導いた。だから、拡大した組合員が、農業の垂直パターンの指導体制に依存するという暗黙的な矛盾が発生した。CPAの設立は社会主義圏の協同組合を目安にした。“国家のため”という機能制度のもとで、その目的は生産を最大に増加することであった。生産のコストと競争を無視して、国家が多くの資材を投入して農産物を流通させた。このやり方はコメコンとの経済統合のもとで作動していた。社会主義圏が崩壊した直後から、このやり方が成り立たなくなったのである。⁽¹⁾

第8表で革命以降の農産物の生産高の推移を見よう。80年代後半で、革命前よりも生産高が低下しているのは、トウモロコシと豆だけである。それ以外の農産物はかなり生産高を伸ばしている。

しかし、80年代末には次のような問題が発生した。①30年間に農業生産物は2倍に伸びたが、生産手段の投入はそれ以上に達した。②生産手段及び労働の生産性は低かった。③農業の低い経済効率の結果、高い補助金が必要になった。④農業労働者の連続的減少は、農業における労働力の不足現象をもたらした。

一方、80年代のキューバ農業は、莫大な投資と十分な機械設備を伴った工業的な大規模経営が主流であった。このことは農業においても海外金融に従属していたといえる。したがって、海外の社会主義圏の崩壊とともに、この大規模経営は成り立たなくなったのである。

第8表 農畜産物の生産高の推移（平均値、1000トン）

作物	1958	1976～80	1981～85	1986～90
じゃがいも	101.1	188.5	260.9	265.5
さつまいも	ND	105.2	182.7	181.1
さといも	ND	140.9	58	45
トマト	104.6	168.8	238.5	244.8
玉ねぎ	ND	10.4	17.4	21.4
とうがらし	ND	31.6	30.7	45.7
米	252.9	453.5	515.4	507.1
とうもろこし	215.2	19.4	27.3	44.9
豆	37.1	4.8	11.1	13.3
バナナ	242.0	228.7	316.6	313.8
柑橘類	60.0	284.3	595.7	897.6
牛肉	ND	300.8	301.6	289.1
豚肉	ND	58.1	80	97.5
牛乳	400.0	773.4	935.4	748.8

出所：NOBAの資料より作成

80年代の頃、農業生産高は国民の需要を満たすには不十分で、1989年の食料輸入は、輸入品総額の10%まで達していた。⁽²⁾

上記の状況の中で、1993年国営農場をUBPCに変換した。UBPCを設立したときに、CPAをキューバの協同組合化の見本とした。しかし、CPAがすでに資材の少ない生産へ向かっていて、国家との契約水準を減らしていた時期に、UBPCが国家からの干渉を引き継いだのである。

3. 第3次農業改革－UBPC－

（1）設立過程及び特徴

キューバ共産党政治局は、93年9月に農業改革を提案した。危機の問題を解決することだけでなく、農業発展の障害物を取り除くために農業構造を大きく変更することになった。

国家の農地の80%以上を所有していた国営農場を再編するためのプログラムを次のように提案した。

- ①農業組織をより小さい農場に変更すること。
- ②農業生産を向上させること。
- ③経済能率を増大して、農業の収益性をえる。
- ④農業の自給力を向上すること。
- ⑤労働力の増加と安定を図ること。
- ⑥生産と作業を刺激する新しい方法を設定すること。

これらの原則のもとで、砂糖きび・非砂糖きび国営農場を再編し、新しい生産組織方法を設定した。

- ①UBPCの設立
- ②コーヒー豆と葉たばこの個人農家の新設。
- ③分割地の食糧生産農家の新設。

CPAの組織をモデルにして、国営農場の大部分をUBPCとして設立した。国営農場を集団農場、つまり協同生産基礎単位(UBPC)として再編したのである。この設立は次のような原則に従う。

- ①半永久的な使用権のシステムのもとで、土地を耕作する。
- ②生産物はUBPCのものである。
- ③生産物は国家が決めた方法で、国家に売り渡す。
- ④業務内容のコストを引き受ける。
- ⑤金融自主制と法人格を持つ。
- ⑥経済単位の組織と業務は協同基礎で行われる。
- ⑦土地の使用と生産物は国家によって規制される。
- ⑧土地を無料で提供し、生産手段は有料になる。⁽³⁾

（2）UBPCの現状

第9表を見ると、計画と比較した場合、葉たばことコーヒー豆・ココアと多毛作が多少達成率が低い程度で、全体としては目標達成したといえるのではなかろうか。UBPCの組合員は26万2,495人である。経営面積は321万8,202ヘクタールである。1単位当たりの平均経営

第9表 UBPCの概略（1995年3月現在）

UBPC	計 画	設 立	組 合 員	平均組合員	面 積 ha	平均面積
さとうきび	1,571	1,426	135,000	94.7	1,744,600.0	1,223.4
非さとうきび	1,673	1,453	127,495	87.7	1,473,602.0	1,014.2
多毛作	384	328	35,252	107.5	140,275.4	427.7
コーヒー豆, ココア	203	172	11,614	67.5	63,319.7	368.2
葉たばこ	86	69	5,477	79.4	16,038.4	232.4
果物と柑橘類	103	105	7,246	69	71,967.0	685.4
米	17	15	2,362	157.5	75,538.9	5,035.9
牧畜	822	707	64,654	91.4	1,099,976.0	1,555.8
養蜂	54	53	404	7.6		
森林	2	2	165	82.5	3,125.7	1,562.8
混合	2	2	321	160.5	3,338.9	1,669.4
合計	3,244	2,879	262,495	91.2	3,218,202.0	1,117.8

出所：「juan vades paz」 p 167

面積が大きいことが特徴である。特に米は5,000haと目立っている。多毛作で、組合員一人当たりの面積は約4haである。さとうきびは一人当たり13haである。これは、農業機械や農薬、化学肥料が少ないこの段階では広すぎるといえるであろう。UBPCは、組合員数、面積において大規模であると言わざるをえないだろう。

第10表 土地の使用と所有権の推移（面積：1000ha）

	1989		1996						1998					
	合 計		合 計		農 業		耕作面積		合 計		農 業		耕作面積	
	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%
合計	11016	100	11014.3	100.0	6762	100	4410.4	100	10972.2	100	6686.2	100	3701.4	100
国営	9065	82	5976.3	54.3	2312.1	34.1	1342.0	30.4	5890.1	53.7	2234.5	33.4	902.6	24.4
非国営	1951	18	5038.0	45.7	4459.9	65.8	3068.4	69.6	5082.1	46.3	4452.2	66.6	2798.8	75.6
UBPC			3143.6	28.5	2844.2	42.0	2099.4	47.6	3116.8	28.4	2756.0	41.2	1739.4	47.0
さとうきび			1614.3						1601.7	14.6	1485.8	22.2	1346.0	36.4
非さとうきび			1529.3						1515.1	13.8	1270.2	19.0	393.4	10.6
CPA	868	8	728.3	6.6	646	9.5	449.7	10.2	722.9	6.6	614.2	9.2	371.8	10.0
さとうきび	235		354.2										218.1	5.9
非さとうきび	633		374.1										153.7	4.2
CCS	833	7	905.4	8.2	739.1	10.9	373.4	8.4	897.7	8.2	779.7	11.7	474.7	12.8
分散農家	250	3	260.7	2.4	230.6	3.4	145.9	3.4	262.5	2.4	236.2	3.5	163.9	4.4

出所：ONE ESTADISTICAS AGROPECUARIAS 1996, 農業省

第10表の土地面積を見ると、89年国営82%、非国営18%、98年は国営53.7%、非

国営46.3%と、非国営がかなり拡大した。98年の耕作面積は、国営がわずかに24.4%、非国営75.6%と非国営による農業生産の比重が大きいことが分かる。なかでもUBPC, CPA, CCSといった協同組合組織で69.8%を占めている。とくにUBPCは全体の47%で、耕作面積から見ても存在は大きい。

第11表 UBPCの部門別推移

	1995		1996		1998	
	実数	%	実数	%	実数	%
さとうきび	1,426	50.5	1,288	45.9	702	31.8
多毛作	328	11.6	342	12.2	359	16.2
コーヒー豆・ココア	172	6.1	232	8.3	269	12.2
葉たばこ	69	2.4	51	1.8	51	2.3
果物と柑橘類	105	3.7	141	5	118	5.3
米	15	0.5	15	0.5	10	0.5
牧畜	707	25.1	735	26.2	702	31.8
合計	2,822	100	2,804	100	2,211	100

出所：農業省

第11表を見ると、UBPCの単位数は95年に比して98年には78%まで減少し、とくにさとうきびUBPCは1,426単位数から702単位数へと半数以上減少した。他方、多毛作、果物と柑橘類、コーヒー豆・ココアの単位数は増加しており、とくにコーヒー豆・ココアの単位数は増加が顕著である。構成比で見ると、さとうきびが95年50.5%から96年45.9%、98年31.8%と減少していることが分かる。

第12表 非さとうきびUBPCの指標の推移（農業省）

	単位	1994	1995	1996	1997	1998
総数	個	958	1514	1656	1599	1602
損失額	100万ペソ	49.0	115.7	159.5	163.9	118.7
組合員	人	80751	111677	117445	105789	104396
前払い金	100万ペソ	156.5	244.1	254.7	246.0	235.2
利益を上げた数	個	379	531	483	488	650
%		40	35	29	31	41
損失を出した数	個	579	983	1173	1111	952
月平均収入	ペソ	175	197	194	207	201
うち利益を上げた	ペソ	199	227	230	243	226
うち損失を出した	ペソ	162	182	181	194	188

出所：NOVA「前掲書」P6

第12表を見ると、損失額が97年にはもっとも多額で1億6,390万ペソ、98年には減少

して1億1,870万ペソである。利益を上げた単位数は、94年には40%で、96年には29%まで落ち込んで、98年41%である。安定しているとはいえない。月平均収入を見た場合、利益を上げた単位の組合員と損失を出した単位の組合員の差が、94年37ペソ、98年49ペソで、かなり開きがあるのが特徴である。98年で、1ヶ月200ペソ足らずで生活しなければならない組合員が多数いるのである。

第13表 UBPCの収益性の推移

	収益がある (%)		1ペソ当たりの生産コスト	
	1996	1998	1996	1998
畜産	21	29	0.76	0.81
果物	49	54	0.76	0.71
柑橘類	48	84	0.74	0.71
葉たばこ	20	16	0.98	0.89
米	40	20	0.87	0.88
コーヒー豆	43	53	0.83	0.91
多毛作	36	40	0.91	0.83

出所：農業省

第13表を見ると、96年収益がある単位数が50%を越える部門はないことが分かる。98年には、果物54%、柑橘類84%、コーヒー豆53%と3部門で収益がある単位数が増えたことが分かる。生産コストを比較した場合、98年コストを引き下げた部門は果物0.05ペソ、柑橘類0.03ペソ、葉たばこ0.09ペソ、多毛作0.08ペソであった。逆にコストが増えた部門は、畜産0.05ペソ、米0.01ペソ、コーヒー豆0.08ペソである。このことから、UBPCの経営が安定しているとはまだ言い難い。経営改善が今後も必要である。

第14表 非さとうきびUBPCの純損失の推移

	純損失（百万ペソ）
1994	49
1995	100
1996	160
1997	173
1998	119
1999	115

出所：ANGEL BU WONG「UBPC」P36, 農業省

第14表を見ると、95年以降毎年1億ペソ以上の純損失がある。なかでも、97年には1億7,300万ペソにも達し、99年にはかなり減少して、1億1,500万ペソである。これから見ても、非さとうきびUBPCが軌道に乗るまではかなり時間がかかるであろう。

第15表 さとうきびUBPCの指標の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
総数	1561	1415	1286	1126	1041	1022
利益を上げた数（％）	71	23	6	7	25	39
損失を出した数（％）	29	77	94	93	75	61
さとうきび生産(百万トン)	32.08	24.25	29.5	27.95	23.6	24.78
収穫面積（千ha）	1002.5	911.2	940.7	925.9	794.5	751.5
ha当たり生産トン数	32	25.83	31.3	30.14	29.72	32.93
1ペソ当たり生産コスト	0.89	1.24	1.67	1.78	1.17	1.05
組合員（千人）	153.1	132.4	140.2	141.1	145.2	139.5

出所：NOVA「LA ECONOMIA CUBANA LA DE CADA DE LOS 90」P4

第15表でさとうきびUBPCの総単位数を見ると、94年1,561単位から毎年減少し、99年1,022単位、65.5％に減少している。したがって、組合員も減少し、94年15万3,100人から99年13万9,500人、91％に減少している。利益を上げた単位数は、94年71％に達していたにもかかわらず、95年23％、96年わずか6％、97年も7％、98年少し回復して25％、99年39％である。収益性をあげるのはかなり困難な状態である。経営改善が必要でしょう。さとうきび生産トン数も94年3,208万トンから99年2,478万トン、77％まで減少している。同じく、収穫面積も100万2,500ha、から99年75万1,500ha、75％まで減少している。しかし、1ha当たりの生産トン数は94年32トンから99年32.9トンと少しばかり増加している。今後は、規模拡大よりも、1ha当たりの生産トン数をあげる集約的栽培の方向を指向していくことが大切であろう。1ペソ当たりの生産コストは、94年0.89ペソから毎年1ペソを超えて、99年も1.05ペソである。これからして、コスト削減は今後の課題であろう。

第16表 メルカードへの販売実績

1000ペソ

	1997		1998		1999	
	値 段	%	値 段	%	値 段	%
国 営 農 場	38539.5	27.7	33338.5	26.1	36605	27.6
U B P C	1144.5	0.8	423	0.3	1010.3	0.8
C P A	578.6	0.4	263.7	0.2	169.5	0.1
E J T	151.3	0.1	104.2	0.1		
個 人 農 家	98693.9	70.9	93432.7	73.2	94741.5	71.5
合 計	139107.8	100	127562.1	100	132526.3	100

出所：独自調査「エンブレサ・プロビンシアル・メルカード」

第16表で見ると、農業自由市場への農産物の販売において、個人農家と国营農場が主力で、UBPCの比重が非常に小さいことが分かる。UBPCが国家にだけ販売するのではなく、自由に販売できるシステムを構築すると、今以上に収益性が高まってくることは必然である。この農産物販売

組織においても、協同組合化を推進する必要があるだろう。つまり、商人組織のメルカードを協同組合組織に変更することである。国民が安い値段で農産物を購入できるし、農業組合員も農産物の販売を通して、国民と連帯することができるであろう。

第17表 メルカード仕入実績 (モノコ)

単位: キンタール, 1000ペソ

生産物	2000年3月			1999年3月		
	量	値段	1@当たり	量	値段	1@当たり
芋類	745.1	149.8	0.20105	870.1	163.5	0.18791
さつまいも	302.2	50	0.16545	485.4	48.6	0.10012
さといも	359.9	83.5	0.23201	235.6	52.7	0.22368
ユカ	68.8	13.2	0.19186	149.1	22.2	0.14889
親さといも	14.2	3.1	0.21831			
野菜類	1253.5	495.3	0.39513	3457	546.6	0.15811
トマト	118.4	142.2	1.20101	2210.6	164.6	0.07446
たまねぎ	317.4	103	0.32451	196.9	86.2	0.43779
ニンニク	20.5	39.5	1.92683	24.1	65.2	2.70539
ピーマン	178.9	67.1	0.37507	164.9	60	0.36386
かぼちゃ	136.2	26	0.1909	250.4	49.3	0.19688
キャベツ	99.1	16	0.16145	153.2	12.3	0.08029
キウリ	90.8	13	0.14317	142.2	21.2	0.14909
スイカ	120.5	12	0.09959			
その他	290.1	72.5	0.24991	314.7	87.8	0.279
米	2.7	1.2	0.44444	18.9	9.4	0.49735
トウモロコシの実	29.8	16	0.53691	3	1.5	0.5
トウモロコシ	32.1	5.5	0.17134	14.9	6.8	0.45638
フリホウレス	53.3	40.5	0.75985	91.4	93.1	1.0186
マニー	8.8	8.9	1.01136	7.2	8.7	1.20833
バナナ	612.7	109	0.1779	217.4	112.4	0.51702
果物	264.6	53	0.2003	130.7	57.8	0.44223
料理用	348.1	56	0.16087	86.7	54.6	0.62976
柑橘類	87.6	24.4	0.27854	70.3	26	0.36984
オレンジ	47.7	8.8	0.18449	25.8	9.6	0.37209
レモン	38.9	15.4	0.39589	44.5	16.4	0.36854
ミカン	1	0.2	0.2			
その他の果物	260.1	83.1	0.31949	268.8	116.2	0.43229
ココ	36.8	9.5	0.25815	22.6	11.3	0.5
グアヤバ	19.7	11	0.55838	43.6	21.8	0.5
パイア	149.9	40	0.26684	162.6	44.7	0.27491
パイナップル	47.1	18.6	0.3949	19	19	1
その他	6.6	4	0.60606	21	19.4	0.92381

豚肉	81.3	165	2.02952	149.9	307.4	2.0507
豚の内蔵	21.4	60.4	2.82243	7.1	25.5	3.59155
羊類	2.7	6	2.22222	6.7	13.8	2.0597
鳥類（生きた）	13.7	17	1.24088	2.9	13.5	4.65517
鳥類	5.2	10.3	1.98077	26.1	52.5	2.01149
たまご	641.8	16.1	0.02509	752.5	22.6	0.03003
花		71.6			65.3	
他の農産物		115.2			194.2	
きびのジュース等		79.6			13.9	
弁当・ケーキ		27.0			7.1	
ロン・たばこ		52.6			6.8	
合計		1474.9			1792.9	
税金		68.7			89.6	
他のサービス		78.2			122.9	
参加人数	802				1116	

他のサービス（電気・水道・倉庫代）

出所：独自調査「メルカード・モナコ」

第17表から判断できることは、99年3月よりも2000年3月の仕入価格は相対的に下がっている。しかし3分の1程度の品物は仕入価格が上がっている。仕入量が31品目中、22品目が減少している。仕入量が減少している芋類と野菜類は単価が上昇している。仕入価格が上がれば当然販売価格は上がっていると見なければならない。したがって、農産物の生産を増やすことが、販売価格を引き下げて、国民の要求に応えることができるのである。

（3）農業生産の実態

第18表 農畜産物の推移

1000トン

	1994	1995	1996	1997	1998	94対98の伸び率
いも類	1,071.9	1,246.4	1,560.5	1,356.5	1,383.7	129.1
野菜	433.6	518.4	631.7	601	846.5	195.2
米	387.6	396.1	572.9	614.2	441.6	113.9
とうもろこし	98.5	103.8	143.9	202.5	176.6	179.3
フリホウレス	22.3	24.5	29.1	33.4	42.2	189.2
柑橘類	540.4	585.4	690.4	834.6	744.5	137.8
その他の果物	153.9	165.9	161.4	162.8	253.5	164.7
肉牛	127.5	134.6	143.8	141.1	148.1	116.2
豚	176.8	162.8	176.1	169.2	182.3	103.1
鳥	68.8	72.7	74.8	79.2	72.6	105.5

羊・山羊	12.1	7.3	6.5	8.4	8.3	68.6
牛乳	635.6	638.5	668.6	708.1	655.3	103.1
たまご (万個)	1,647.4	1,542.5	1,412.5	1,631.6	1,415.7	85.9

出所： one:anuario estadístico de cuba 1998

次ぎに第18表で農産物の生産高を検討しよう。UBPC設立後の94年以降の生産高は、毎年多少の変動はあるにしても伸びており、98年は羊とたまご以外は生産高を伸ばしている。94年との比較で、伸び率の高い順に見ると、野菜、フリホーレス、とうもろこし、その他の果物、いも類となっている。米が自給でき、豚、鳥、牛乳の生産高が伸びていくことが理想であろう。

第19表 農業生産物の推移

トン

	1989	1992			1993			1994
	合 計	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家	合 計
じゃがいも	281,700	264,501	227,648	36,853	235,245	200,967	34,278	188,334
さつまいも	194,800	205,802	152,358	53,444	130,428	87,517	42,911	133,414
さといも	37,600	25,474	14,560	10,914	10,698	6,720	3,978	7,208
バナナ	291,300	514,625	412,524	102,101	400,018	332,535	64,483	360,679
トマト	259,900	197,240	110,365	86,875	127,757	60,916	66,841	95,876
玉ねぎ	21,600	9,965	5,625	4,340	6,256	3,566	2,690	2,906
とうがらし	53,200	19,769	6,321	13,448	14,989	2,636	12,353	6,916
米	536,300	358,408	320,875	37,533	176,764	160,239	16,525	226,095
とうもろこし	47,100	58,469	35,696	22,773	49,449	26,756	22,693	73,623
フリホウレス	14,100	9,727	7,883	1,844	8,819	7,422	1,397	10,771
たばこ	41,600	24,636	6,016	18,620	19,892	5,373	14,519	17,084
オレンジ		433,931	361,010	72,921	383,685	318,953	64,732	256,435
グレープフルーツ		310,537	296,219	14,318	236,343	225,009	11,334	223,504
レモン		21,771	17,523	4,248	13,747	10,865	2,882	15,162
マンゴー		39,202	17,542	21,660	18,057	8,069	9,988	44,444
グアヤバ		23,108	12,858	10,250	9,680	5,470	4,210	8,780
パパイヤ		16,109	9,536	6,574	13,777	10,329	3,448	8,587
カカオ		2,954	1,923	1,031	1,795	797	998	1,337
リュウゼツラン		129,654	129,654		79,038	79,038		49,640

	1994		1995			1996		
	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家
じゃがいも	73,119	115,215	281,642	111,126	170,516	364,958	147,537	217,421
さつまいも	52,981	80,433	151,587	56,746	94,841	149,431	52,005	97,426
さといも	2,175	5,033	7,782	2,004	5,778	10,298	2,056	8,242
バナナ	178,125	182,554	399,989	183,018	216,971	539,426	255,273	284,153
トマト	34,843	61,033	140,406	42,614	97,792	162,872	36,261	126,611
玉ねぎ	963	1,943	6,010	813	5,197	8,353	984	7,369
とうがらし	1,204	5,712	8,119	1,616	6,503	10,604	2,096	8,508
米	115,470	110,625	222,846	100,370	122,476	368,616	181,502	187,114
とうもろこし	17,613	56,010	80,990	23,899	57,091	104,325	29,118	75,207
フリホウレス	3,912	6,859	11,474	3,834	7,640	14,049	3,829	10,220
たばこ	1,713	15,371	24,989	1,908	23,081	31,485	2,473	29,012
オレンジ	156,258	100,177	275,545	137,849	137,696	283,244	143,107	140,137
グレープフルーツ	165,867	57,637	261,199	202,307	58,892	349,918	253,055	96,863
レモン	4,419	10,743	18,540	4,924	13,616	20,148	4,319	15,829
マンゴー	13,948	30,496	70,917	14,530	56,387	50,448	14,175	36,273
グアヤバ	1,037	7,743	9,352	1,285	8,067	10,413	1,447	8,966
パパイア	3,494	5,093	10,182	4,420	5,762	15,121	5,833	9,288
カカオ	550	787	2,062	586	1,476	1,869	359	1,510
リュウゼツラン	49,460		69,265	69,265		144,226	144,226	

	1997			1998		
	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家
じゃがいも	329,946	139,986	189,960	206,208	81,302	124,906
さつまいも	145,649	44,664	100,985	157,460	51,711	105,749
さといも	14,365	2,093	12,272	25,613	2,843	22,770
バナナ	382,326	193,965	188,361	462,280	241,334	220,946
トマト	146,242	39,462	106,780	112,155	37,484	74,671
玉ねぎ	11,141	2,355	8,786	15,688	4,660	11,028
とうがらし	10,383	1,849	8,534	8,178	2,404	5,774
米	418,848	221,421	197,427	280,412	152,203	128,209
とうもろこし	126,032	34,411	91,621	110,793	37,594	73,199
フリホウレス	15,754	4,628	11,126	18,490	6,564	11,926
たばこ	30,938	2,613	28,325	37,870	3,597	34,273
オレンジ	482,341	278,519	203,822	358,661	165,258	193,403
グレープフルーツ	296,330	172,314	124,016	324,100	208,685	115,415
レモン	20,974	1,969	19,005	17,318	1,592	15,726
マンゴー	52,578	10,975	41,603	43,002	11,536	31,466
グアヤバ	6,658	823	5,835	6,695	1,610	5,085
パパイア	23,265	10,304	12,961	36,649	14,172	22,477
カカオ	1,351	221	1,130	1,896	235	1,661
リュウゼツラン	133,845	133,845		81,363	81,363	

出所：one:anuario estadístico de cuba 1998

第19表で89年と98年を見ると、11品目のうち、バナナ、とうもろこし、フリホーレスは89年の生産高を超えるが、残りの品目はまだ89年の生産高に達していないことが分かる。品目別に見ていくと、じゃがいもは96年に最高の36万4,958トン生産し、98年には20万6,208トンである。さつまいもは92年に最高の20万5,802トン生産し、98年は15万7,460トンである。さといも、トマト、玉ねぎ、とうがらし、米、たばこは、89年に最高の生産高を上げて、98年にはまだそれに達していない状態である。今後は生産高を上げる努力が必要であろう。92年の国家と非国家を比較した場合、19品目中16品目は国家の生産量が多く、とうがらし、たばこ、マンゴーだけが非国家の生産量が国家よりも多い。しかし98年で比較した場合、19品目中15品目は逆に非国家の生産量が多くなって、バナナ、米、グレープフルーツ、リュウゼツランだけが国家の生産量が多い。したがって、現在では非国家の比重が大きいが分かる。

第20表 農産物の1ha当たりの推移

トン

	1992			1993			1994
	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家	合 計
じゃがいも	18.03	18.09	17.69	16.96	17.09	16.24	12.95
さつまいも	3.42	3.46	3.3	2.84	2.81	2.89	2.68
さといも	2.36	3.01	1.83	1.46	2.32	0.9	1.3
バナナ	8.39	10.61	4.54	6.44	7.84	3.43	5.07
トマト	6.29	6.55	6	5.06	4.97	5.15	4.37
玉ねぎ	3.59	3.46	3.77	4.19	4.26	4.1	3.42
とうがらし	6.19	4.88	7.09	5.51	3.19	6.52	3.8
米	2.19	2.31	1.52	1.91	2.02	1.24	2.32
とうもろこし	0.82	1.01	0.63	0.73	0.85	0.62	0.95
フリホウレス	0.2	0.25	0.11	0.18	0.23	0.09	0.19
たばこ	0.55	0.43	0.61	0.49	0.42	0.53	0.47
オレンジ	6.18	5.95	7.6	5.63	5.42	6.98	4.07
グレープフルーツ	9.79	9.62	15.43	7.33	7.22	10.53	7.95
レモン	2.24	1.9	8.59	1.35	1.14	4.87	1.57
マンゴー	1.79	1.02	4.61	0.86	0.49	2.2	2.03
グアヤバ	3.08	2.46	4.49	1.44	1.26	1.78	1.53
パパイヤ	11.19	9.34	15.69	14.26	15.65	11.26	10.49
カカオ	0.34	0.53	0.21	0.2	0.21	0.19	0.15

	1 9 9 4		1 9 9 5			1 9 9 6	
	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家
じゃがいも	12.8	13.05	21.3	21.09	21.43	26.57	26.49
さつまいも	2.73	2.65	3.11	3.46	2.93	3.37	3.68
さといも	1.53	1.22	1.92	2.72	1.75	2.11	3.05
バナナ	7.16	3.94	5.41	7.22	4.47	7.26	9.42
トマト	5.19	4.01	6.49	7.29	6.2	6.3	4.22
玉ねぎ	3.34	3.46	4.7	3.37	5.01	5.35	2.61
とうがらし	2.84	4.09	5.36	5.38	5.36	7.07	5.1
米	2.43	2.23	2.56	2.33	2.79	2.46	2.43
とうもろこし	0.89	0.97	1.05	1.27	0.98	1.17	1.29
フリホウレス	0.2	0.19	0.26	0.3	0.24	0.3	0.3
たばこ	0.49	0.47	0.65	0.56	0.66	0.76	0.74
オレンジ	5.3	2.99	4.42	4.71	4.16	5.92	8.44
グレープフルーツ	8.65	6.44	9.52	10.8	6.76	14.21	16.05
レモン	0.84	2.45	1.88	0.91	3.06	4.04	4.85
マンゴー	1.51	2.41	3.5	1.66	4.9	2.48	1.66
グアヤバ	0.53	2.04	2.3	1.2	2.69	2.73	1.06
パパイア	10.63	10.4	11.02	10.75	11.24	12.04	10.27
カカオ	0.24	0.11	0.24	0.56	0.2	0.22	0.39

	1 9 9 6	1 9 9 7			1 9 9 8		
	非国家	合 計	国 家	非国家	合 計	国 家	非国家
じゃがいも	26.62	19.15	18.75	19.45	16.95	17.27	16.75
さつまいも	3.22	3.31	3.47	3.24	3.57	4.14	3.34
さといも	1.96	2.63	3.63	2.53	4.44	4.67	4.41
バナナ	6.02	5.16	7.46	3.91	6.48	8.94	4.98
トマト	7.34	6.13	6.98	5.87	5.7	8.4	4.91
玉ねぎ	6.22	5.85	6.83	5.63	6.6	12.54	5.5
とうがらし	7.82	6	5.65	6.09	4.88	9.24	4.07
米	2.49	2.88	3.38	2.46	2.28	2.74	1.9
とうもろこし	1.13	1.27	1.44	1.22	1.3	1.91	1.12
フリホウレス	0.3	0.31	0.36	0.3	0.41	0.58	0.35
たばこ	0.76	0.67	0.78	0.66	0.77	0.7	0.78
オレンジ	4.54	10.36	18.23	6.51	7.86	10.2	6.58
グレープフルーツ	10.93	12.42	11.93	13.17	15.39	16.65	13.55
レモン	3.87	5.49	2.5	6.26	4.29	3.05	4.47
マンゴー	3.07	2.56	1.12	3.89	0.9	1.23	0.82
グアヤバ	3.66	2.69	1.9	2.85	1.56	3.65	1.32
パパイア	13.49	13.53	15.54	12.27	19.73	22.76	18.21
カカオ	0.2	0.18	0.21	0.17	0.27	0.27	0.26

出所：one:anuario estadístico de cuba 1998

第20表で農産物の1ha当たりの生産高を見ると、バナナは92年国家が最高の10.61トン生産、グアヤバは92年非国家が最高の4.49トン生産し、カカオは95年国家が最高の0.56トン生産している。マンゴーは95年非国家が最高の4.9トン生産し、じゃがいもは96年非国家が最高の26.62トン生産している。米、たばこ、オレンジは97年国家が最高の3.38トン、0.78トン、18.23トン生産している。また、レモンは97年非国家が最高の6.26トン生産している。98年には国家が9品目で最高の生産性を上げている。さつまいも4.14トン、さといも4.67トン、トマト8.4トン、玉ねぎ12.54トン、とうがらし9.24トン、とうもろこし1.91トン、フリホーレス0.58トン、グレープフルーツ16.65トン、パパイヤ22.76トン等である。今後は、国家が1ha当たりの生産性を高めて、UBPC等の指導的立場を確立できることを期待したい。

第21表 さとうきび生産の推移

	収穫面積 (1000ha)			生産高 (100万t)			ha当たり生産高 (t)		
	合 計	国 営	非国営	合 計	国 営	非国営	合 計	国 営	非国営
80/81	1,209.3	1,012.5	196.8	66.6	54.5	12.1	55.1	53.8	61.3
81/82	1,327.3	1,115.4	211.9	73.1	60.2	12.9	55.1	53.9	61.0
82/83	1,200.3	968.1	232.2	69.7	54.9	14.8	58.1	56.7	63.6
83/84	1,349.5	1,102.8	246.7	77.4	63.2	14.2	57.4	57.3	57.6
84/85	1,347.8	1,102.7	245.1	67.4	55	12.4	50.0	49.8	50.7
85/86	1,328.6	1,094.5	234.1	68.4	56.2	12.3	51.6	51.3	52.7
86/87	1,358.3	1,126.3	232.0	70.8	58.2	12.6	52.1	51.7	54.5
87/88	1,297.3	1,061.6	235.7	73.7	59.3	14.4	56.8	55.9	61.3
88/89	1,350.6	1,118.3	232.3	81	66.4	14.6	60.0	59.4	62.8
89/90	1,420.3	1,192.0	228.3	81.8	67	14.8	57.6	56.2	64.8
90/91	1,452.2	1,219.2	233.0	79.7	64.9	14.8	54.9	53.2	63.7
91/92	1,451.7	1,230.6	221.1	66.3	54.4	11.9	45.6	44.2	53.7
92/93	1,211.7	1,013.2	198.5	43.7	35.4	8.3	36.0	35.0	41.4
93/94	1,248.9	63.8	1,185.1	43.2	2.2	41	34.6	34.1	34.6
94/95	1,177.4			33.6			28.5		
95/96	1,244.5	97.1	1,147.4	41.3	2.7	38.6	33.2	28.3	33.6
96/97	1,246.3	111.3	1,135.0	38.9	2.7	36.2	31.2	24.3	31.9
97/98	1,048.5	67.5	981.0	32.8	1.7	31.1	31.3	25.2	31.7

出所：one:anuario estadístico de cuba 1998

第21表で、さとうきび生産の推移を見ると、収穫面積がもっとも多いのは90/91年で145万2,200haで97/98年には104万8,500ha,72%に減少している。さらに、1ha当たりの生産高を見ると89/90年に非国営が最高の64.8トン生産し、96/97年には国営が24.3トンまで低下している。かなりの生産性の低下である。深刻な問題といわざるをえない。生産性を高めるために化学肥料に変わる有機肥料を増産する手だてを構築していくことも

大切である。次にさとうきび生産高を見ると、89/90年に最高の8,180万トン生産したにもかかわらず、現在は3,280万トンの生産である。97/98年にはピーク時の40.1%まで減少したことになる。深刻な問題と言わざるをえない。

第22表 キューバの人口及び農村人口

州	人 口	農村人口	構成比
ピナル・デル・リオ	731,289	264327	36.1
ハバナ	696,194	150438	21.6
ハバナ市	2,192,321		
マタンサス	654,520	128670	19.7
ビジャ・クララ	833,424	187933	22.5
シェンフェゴス	392,352	75813	19.3
サンクティ・スピリトゥス	458,776	139080	30.3
シエゴ・デ・アピラ	403,883	102453	25.4
カマグエイ	782,233	195673	25
ラス・トゥナス	525,021	216440	41.2
オルギン	1,024,907	420690	41
グランマ	827,590	351027	42.4
サンティアゴ・デ・クーバ	1,027,912	306538	29.8
グアンタナモ	510,759	206585	40.4
青年の島	78,694	9837	12.5
合 計	11,139,875	2755504	24.7

出所： one, abril de 1999

現在キューバの人口1,100万人のうち276万人、24.7%は農村人口である。この構成比を現状維持するかあるいは増加する方向でなければ食糧の自給は困難であろう。今後の農業のあり方は、食糧自給を目安にして、複合経営を推進していく必要がある。そのためにはさとうきびの単作を止めて、さとうきびと他の作物の輪作を導入することである。それは砂糖工業省の改革が前提でなければならないだろう。大きな変革を断行しなければ、さとうきび増産は困難であろう。

第23表 土地面積の構成

1000ha

	1992	構成比	1994	構成比	1997	構成比
総面積	11,066	100	11,044	100	10,972.2	100
農業	6,775	61.2	6,686	60.5	6,686.7	60.9
耕作済面積	4,437	40.1	3,974	36	3,701.4	33.7
非耕作面積（牧草地をむ）	2,338	21.1	2,712	24.6	2,985.3	27.2
非農業（森林を含む）	4,291	38.8	4,358	39.5	4,285.5	39.1

出所： one: estadísticas agropecuarias y anuario estadístico de cuba 1998

第23表で見ると、土地面積のうち、92年には農業面積が677万5,000haで、そのうち耕作面積が443万7,000ha、構成比40.1%に対して、97年の耕作面積は370万1,400ha、構成比33.7%まで減少している。耕作面積は減少傾向があるので、逆に拡大していく方向を推進して、農業人口を増やさなければ、国民への食糧供給が困難になるだろう。

4. 今後の課題

UBPCを軌道に乗せるためには今後も改革を続行していく手だてが必要である。農業労働者の意識の問題を重視して、対策を考える必要がある。協同労働の大切さを学習することから始めることが大切である。UBPCはCPAよりも自己管理意識を持たずに、また困難な経済条件のもとで、協同経験を始めた。現実の労働の自覚と予想した自主管理自覚とを比べると次のようになる。⁽⁴⁾

協同的労働自覚

<u>予想した自覚</u>	<u>現実の自覚</u>
集団所有権の自覚あり	なし
期待と経済成果との強い関連	よわい
期待がある	少ない
新しい刺激	なし
CPAに対して好意的な理解	懐疑的な理解
経済発展の自覚	なし

この比較で、「現実の自主管理自覚」は、UBPCを活動させる条件として「予想した自主管理自覚」からかけ離れている。したがって、協同労働を伴う協同文化の育成が大事である。そのために、社会化における国有化の交替手段として、集団化を社会的に再評価する必要がある。

二点目として関連企業の協同組合化を推進していくことである。

キューバでは協同経済が、社会主義建設の重大な柱になることが大切である。というのは、社会主義の本質の中には、集団精神、社会化生産方式があって、富を入手するよりも、社会安楽を推進することを重視する。そこから、運動の統合で、縦横の方向へ本質の飛躍をしなければならない、この運動の戦略的重大さがある。即ち協同組合間の協力と上部の協同組合の結成を推進すること。この上部の協同組合を通じて、生産だけでなく、資材購買と流通、生産物販売への協同組合組織を拡大しながら、協同組合主義を社会主義建設の主要な要素にすることが肝要である。

資材配分と農産物売買契約の機構を簡素化することで、UBPCが農業・食糧の鎖の一つの環に参加することができる。それゆえ、その業務活動が生産活動だけでなく、資材購買と流通、農産物販売の業務にも参加できる。それで、商売と農業生産の活動を連結したり統合したりする。基礎の協同生産を代表する単位が自主管理のもとで資材購買をして、一方で、農産物の販売をする。理想的な組織ができる。

謝辞

キューバ人も日本人と同じく親切心の持ち主が多い。親身に対当すれば相手も親身に対当してくれることを体験することができた。私が50才を越えて、スペイン語習得・キューバ経済研究の道を歩む決意ができたことは、キューバ人の皆さんの協力があったからである。ハバナ大学のモリーナ教授、ノバ教授、通訳のパブロさん・中川さん、通訳及び翻訳をしてくれたアルベルトさん、運転手のリカルドさん、下宿先のシルビアさん家族（モンソン夫妻、クラウディオ君）や、庶民生活を体験させてくれた皆さんの協力は多大のものがありません。おかげで、モンソンさんを始め上記の経済学者と今後共同研究を推進する計画が成立しました。キューバの皆さんと末永くアミスタードの関係を続けていくことを大変うれしく思っています。紙上を借りて感謝の意を表したいと思います。

参考資料

A世帯（1人）物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）		
	量	値 段	1 リブラ当たり
じゃがいも	4	1.6	0.4
米	6	1.5	0.25
砂糖	3	0.45	0.15
白砂糖	3	0.3	0.1
塩	0.5	0.1	0.2
マッチ	1	0.05	
パン	30	1.5	0.05
鶏肉	1	0.7	
たまご	12	1.8	
魚の缶詰	1	1.7	
合 計		9.7	

B世帯（1人）物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）			市 場		
	量	値 段	1 リブラ当たり	量	値 段	1 リブラ当たり
じゃがいも	10	0.4				
バナナ				1	2.5	
ユカ				1	2.5	
オレンジ				1	0.05	
キャベツ				1	2	
米	6	0.06				
たばこ	3	0.6				

上質たばこ	1	0.2				
マッチ		0.05				
コーヒー	0.5	0.24				
レモン				1	0.5	
黒豆				1	10	
料理用オレンジ				1	0.5	
バンシロ				1	2	
白豆				1	9	
さといも				1	3	
ニンニク				1	2	
玉ねぎ				1	3	
パン	30	1.5	0.05			
きうり				1	2	
パパイヤ				1	3	
豚肉				1	25	
鶏肉	0.5	0.7				
牛肉	0.25	0.7				
たまご	12	1.8				
魚の缶詰	1	2				
砂糖	6	0.75				
合 計		9			67.05	

C世帯（2人） 物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）		
	量	値 段	1 リブラ当たり
米	4600g	2.5	
塩	690g	0.16	
マッチ	2 個	0.05	
コーヒー	115g	0.16	
豆	1.15onsu	0.8	
パン	66	3.1	0.05
たまご	28	4.2	0.15
アルコール	1.5	0.2	
鶏肉	2	2	600g
砂糖	2760g	0.82	0.41
黒砂糖	2760g	0.46	0.23
浴用石けん	2	0.5	0.25
洗剤	1	1.8	
スパゲッテ	115g	0.06	
ソーメン	460g	0.5	
小麦粉	115g	0.06	
合 計		17.37	

D世帯（2人）物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）			市 場		
	量	値 段	1 リブラ当たり	量	値 段	1 リブラ当たり
じゃがいも	6	2.4	0.4			
バナナ				10	10	1
さつまいも				4	1.6	0.4
かぼちゃ				5	7.5	1.5
オレンジ	10	2.5	0.25			
米	12	3	0.25			
牛乳		0.5				
たばこ	1	7				
上質たばこ						
マッチ	2	0.1	0.05			
コーヒー	2	0.2	0.1			
レモン				4	4	1
黒豆				2	14	7
白豆				2	18	9
さといも				2	7	3.5
ニンニク				10	20	2
玉ねぎ				1	4	4
パン	60	3	0.05			
豚肉				10	230	23
鶏肉				10	230	23
牛肉						
たまご	2	1.8	0.9			
魚の缶詰	2	3.4	1.7			
合 計		23.9			546.1	

E世帯（2人）物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）			市 場			そ の 他		
	量	値 段	1 リブラ 当 たり	量	値 段	1 リブラ 当 たり	量	値 段 (ドル)	1 リブラ 当 たり
じゃがいも	8ribura	3.2	0.4						
料理用バナナ	2	0.6	0.3	3	18	6			
さつまいも	2	0.4	0.2						
かぼちゃ				2	8	4			
ユカ				2	10	5			
オレンジ				8	24	3			
キャベツ				2	8	4			
米	12	2.52	0.21	12	60	5			

バナナ				12	60	5			
塩	1	0.1	0.1						
洗剤	1	3.6					1	1.5	1.5
粉ミルク							4	12	3
たばこ	3	6	2						
上質たばこ	1	2.5	2.5						
マッチ	2	0.1	0.05						
コーヒー	1	0.3	0.3				1	6	6
黒豆	2	0.5	0.25						
レモン				2	10	5			
豆				3	30	10			
白豆							2	4	2
ニンニク				15個	30	2			
インゲン豆				1	6	6			
パン	60	2	0.05	40	40	1			
キュウリ				1	8	8			
たまねぎ				5	50	10			
ピザ				12個	96	8			
とうがらし				1	10	10			
甘い椰子のみ				1	20	20			
ピーマン				2	10	5			
にんじん				2	20	10			
豚肉							8	12	1.5
鶏肉	1	0.7	0.7				10	15	1.5
牛肉	1	0.45	0.45				4	12	3
たまご	12	1.8	0.15	20	40	2			
魚の缶詰	2	3.4	1.7						
油							2	4.8	2.4
砂糖	6	1	0.17						
ハム							10	20	2
魚							5	10	2
トマトソース							3	6	2
スパゲッティ	1	1	1				3	3	1
マヨネーズ							2	4	2
ソーセージ	1	3.4	3.4						
ココア							2	4	2
小麦粉							2	1	0.5
チーズ							8	24	3
コカコーラ							5	6.75	1.35
アイスクリーム							10	10	1
マルタ							10	6	0.6

浴用石けん						5	2.5	0.5
トイレットペーパー						8	2	0.25
シャンプー						0.75	2.5	3
練り歯磨き						1	1	1
合 計		33.57			558		170.05	

F世帯（5人） 物価の調査票（1月）

	ボデガ（配給所）			市 場		
	量	値 段	1 リブラ当たり	量	値 段	1 リブラ当たり
じゃがいも	20	0.4				
バナナ	20	0.4		10	20	2
さつまいも	20	0.4		15	45	3
かぼちゃ				15	30	2
オレンジ				20	6	0.3
キャベツ				8	2.4	0.3
米	30	7.8	0.26	10	35	3.5
塩	2	0.2	0.1			
たばこ（強い）	9	2				
上質たばこ	3	2.5				
たばこ	4	1				
マッチ	5	0.2				
コーヒー	5	0.12				
レモン				30	90	
黒豆				6	12	
料理用オレンジ				15	45	
パンシロ				15	30	
白豆	5	1		5	10	
ユカ				5	15	
さといも				5	10	
ニンニク				20	40	
玉ねぎ				30	300	
パン	150	7.5	0.05			
豚肉				20	400	
鶏肉	5	2.5				
牛肉	3	2.1				
たまご	30	4.5				
魚の缶詰	4	6.8				
合 計		39.42			1090.4	

参考文献

- ・ Juan Valdes Paz, Procesos Agrarios en Cuba, Editorial de Ciencias Sociales, 1997
- ・ ONE Anuario Estadístico de Cuba 1998
- ・ LAS UBPC Y SU NECESARIO PERFECCINAMIENTO, ARMANDO NOVA
- ・ CUBA REFORMAS Y MODERNIZACION SOCIALIZADAS, Evellos Vilarino
- ・ UBPC : VÍAS DE SOLUCIÓN PARA LA ELECCIÓN DE LA EFICIENCIA, Angel Bu Wong, 1998
- ・ La Agricultura Cubana : Evolución y Trayectoria, Armando Nova, 2000
- ・ La economía Cubana en la década de los 90, Armando Nova, 2000
- ・ BOHEMIA 1998年11月 第1号
野菜は健康に大変重要であるが、キューバ人は習慣、あるいはお金の不足で毎日野菜を消費しない。
98年3月段階で、30万4000トンの生産。
キューバ人が毎日、野菜を232.43グラムを食べたことになり、これは国連のFAOの300グラムに近い。
1平方メートル当たり20キログラムを作ることが目標。
- ・ BOHEMIA 1998年12月 第1号
農業市場の値段が高いがある程度農産物の不足を解決している。
協同組合を作って農産物を販売するか、アコピオを改革する必要がある。
キューバの家庭は4つの方法で食糧を手に入れる。（1996年、経済計画省の社会政策部の研究）配給販売市場食糧費用の24%、農業市場40%、外資市場10%、闇市場26%
- ・ GRANMA 29 NOVIEMBRE DE 99
砂糖1トン当たりのコストは72ペソである。 98/99年の生産高は390万トン
1カバジェリア当たり4万グロスである。
修理中の製糖工場が43軒ある。
- ・ GRANMA 31 DICIEMBRE 99
LA HABANA州がさとうきびの植え付け計画を達成した。
- ・ JUVENTUD REBELDE 2 DE ENERO DE 2000.
カマグエイ州で小収獲を満たす
- ・ TRABAJADORES 3 DE ENERO 2000.
さとうきびの人口種を作り出す。
- ・ TRABAJADORES 3 DE ENERO 2000
サンチャゴでキューバ州がサフラの能率で目立つ。
- ・ GRANMA 4 DE ENERO 2000
グアタナモ州の農業生産を増やす。
99年に250万キントール生産した。
オルガノポニコでは1平方メートル当たり23キログラム生産し、1日当たりの消費は282g

ラムである。

・ GRANMA 5 DE ENERO DE 2000

- (1) angel bu wong 『Las UBPC』 1998 参照
- (2) カロリー計算で50%前後, タンパク質で60%前後を輸入している。
- (3) GRANMA 93,9,18 参照
- (4) angel bu wong 『前掲書』